





東日本大震災では、物資供給の災害協定が役に立ったか。コンビニなど全国ネットワークのある企業が

東京経済大

### 吉井博明教授

## 早い状況確認 必要

供給能力を持っていたのに、被災者へ十分に届かない地域が多かった。行政がどこに何をどれだけ届けるか、適切に指示できなかつた。被災者のニーズを早くつかんで企業に伝えるべきなのに、実際は情報が入るのを待つ受け身の姿勢だったため対応が遅れた。

「災害が大規模になると情報収集が困難になる。職員を派遣して被災者の情報を積極的に取りに行く姿勢が必要。」

「被災者の状況や要望の把握に努め、比較的早い支援ができた。」

「全国で多くの災害協定が結ばれているが、機能するのかわからない。協定を結んだだけで、実際に遂行できるかほとんど検証されていない。災害を想定し、情報収集や連絡、対応などをシミュレーションする図上訓練の中で、協定が使えるように対応能力を高めておくことが大切だ。」

### 災害協定 — 識者に聞く

災害時の協定がいざという時に役立つためのポイントは何か。災害の危機管理について行政への指導実績のある吉井博明・東京経済大コミュニケーション学部教授(左)に写真に聞いた。

「聞き手・林勝」

## 苦しい心 書類に込め

正月早々、仮設住宅に閉じこもって幸さんは書類の山と格闘していた。東京電力が示した賠償方法に納得がいかず、国などが新たに設けた紛争解決センターを通じて和解を申し立てると決めたのだ。

最初は面倒くさかった光一さんも「いいんじゃないか」と賛成してくれた。とはい

え、書類の記入はもっぱら幸さんの仕事。大好きな駅伝のテレビ中継にくぎ付けの光一さんは「やっぱり事務仕事はお母さんに任せるのが一番」と気楽なことを言っている。「お父さんも仕事でストレスを抱え込んでいるみたいだから」。幸さんは「手伝って」のひと言をぐっとのみこんだ。

「書類の山」とはいえ、担当弁護士からもらった申立書類のひな型は、以前に東電が送ってきたものと比べれば「丘」程度

原発1号からの避難  
いつの日か

—28—

だ。「何より被害者の立場に立とうという気持ちが感じられる」。賠償を望む項目は「避難の際にベットを置きざりにして、今も心が痛む」など、精神的な損害も事細かに列挙してある。「すべての項目は認められないだろうけど、苦しい気持ちをはき出せるだけで意味があるように思える」

合間を縫って作ったおせち料理は、郷土料理のいかニンジンとお煮染めくらい。いつもよりぐっと控えめだ。それでも、帰省

した梨奈さんも含めて徐々に家族全員で食卓を囲んだ。「家族と過ごせる幸せが一番感じたお正月です」

**臨(はなわ)さん一家** 原発事故で福島県大熊町から避難。光一さん(43)と妻幸さん(44)、次女沙也加さん(15)は愛知県豊田市で暮らした後、福島県会津若松市の仮設住宅に移った。長女梨奈さん(19)は東京で大学生生活。